

新品種「新緑甘とう」 黒あざ果が少ない多収性の固定種甘とうがらし

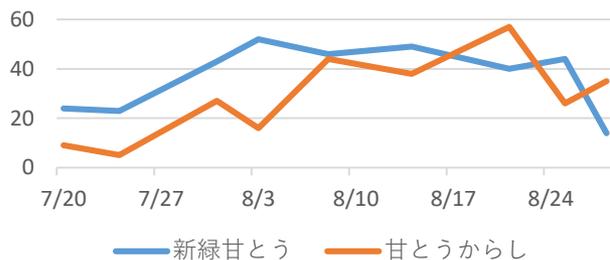
研究開発の背景

現行の頒布品種「甘とうがらし（自農系）」に出るアントシアニン着色果実（黒あざ果）の発生を抑え、収量性の高い品種を育成しました

研究成果の内容

新緑甘とうは初期から収量が高く、黒あざ果の発生率が「甘とうがらし（自農系）」の1/20以下（※当社調べ）

収穫本数



黒あざ発生率



生育中期の果実の写真

※当社比較による結果（調査期間7/20～8/28）。栽培地：当センター研究圃場（長野：露地4月播種、5月下旬定植）（栽植密度1111株/10a）

導入をお勧めする対象

家庭菜園者、有機栽培での直売や自給用に最適

導入メリット

現行品種より樹勢が強く、育てやすい
多収性で黒あざ果が発生しにくい